



｜ 特別展 ｜

主 藩 一 代 初 建 村 田 頭 和 歌 と

しょだい
いちのせきはんしゅ
たむらたけあき
と わか

2026.9.19 SAT
— 11.23 MON

主催／一関市博物館
共催／国文学研究資料館、同志社大学

一関市博物館
ICHINOSEKI CITY MUSEUM

〒021-0101 岩手県一関市殿美町字沖野々215番地1
TEL 0191-29-3180 FAX 0191-33-4006
<https://www.city.ichinoseki.iwate.jp/museum/>



〔資料〕
織物歌仙手鑑／個人蔵、寛元天皇宸筆御繪図／同志社
大学歴史資料館蔵、狩野常信曲歌仙小色紙手鑑／個人蔵、
寸松庵色紙ちはやふる／京都国立博物館蔵、田村建
頭手鑑／当館蔵、狩野常信画 古野園屏風／当館蔵、歌
伝書百人一首／当館蔵、田村建頭詠草／当館蔵

みやび

武家の

| 特別展 |

初代一関藩主 田村建頭 と和歌

しょうだい
いちのせきはんしゅ
たむらたけあき
とわか

2026.9.19 SAT — 11.23 MON

入館料無料の日

- 特別展初日／9月19日(土)
- 開館記念ウィーク／10月6日(火)～10月12日(月・祝)
- 東北文化の日／10月31日(土)、11月1日(日)
- 文化の日／11月3日(火)

主催／一関市博物館 共催／国文学研究資料館、同志社大学

初代一関藩主田村建頭。外様大名伊達氏の分家大名ながら、長く奏者番を務めるなど幕府に重用された。江戸城松の廊下で刃傷に及んだ浅野内匠頭の身柄を預かり、建頭の江戸屋敷が切腹の場となったことは有名である。一関では、学問立藩の構想を描いた理想の藩主として尊敬されている。その建頭、実は歌人としても名高く、和歌を通じて天皇や公家と交わり、その人脈がまた彼の栄達を支えた。和歌をめぐる元禄時代の人々の交流と田村建頭の熱き想いに触れ、あこがれの京のみやびなる世界をご堪能ください。

関連事業

セミナー

一関藩田村家セミナー — 和歌が結ぶ京・江戸・一関 —

◎日時 / 10月11日(日)13:30～16:00

◎内容 / 講演①「初代一関藩主田村建頭の生涯」

相馬 美貴子(当館主任学芸員)

講演②「建頭と和歌 — 師、岡本宗好のことなど —」

大谷 俊太氏(京都女子大学教授)

講演③「霊元天皇が見た建頭の和歌」

大山 和哉氏(同志社大学准教授)

◎定員100名、参加無料、電話申込必要

講演

和歌をよむ・かく・うたう — 歌道事始め —

◎日時 / 11月1日(日)13:30～15:00

◎講師 / 御手洗 靖大氏(宮城教育大学講師)

◎定員100名、参加無料、電話申込必要

ギャラリートーク

◎日時 / 10月10日(土)14:00～14:45

加藤 弓枝氏(名古屋大学准教授)

渡邊 美希氏(東京工業高等専門学校助教)

◎日時 / 10月11日(日)16:10～16:40

大山 和哉氏(同志社大学准教授)

大谷 俊太氏(京都女子大学教授)

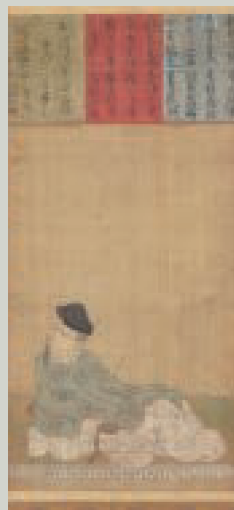
相馬 美貴子(当館主任学芸員)

◎日時 / 11月1日(日)15:15～16:00

日高 愛子氏(熊本大学准教授)

渡邊 美希氏(東京工業高等専門学校助教)

◎参加無料、申込不要



- ①重要文化財 寸松庵色紙(ちはやふる)／京都国立博物館蔵
- ②柿本人麿像／京都国立博物館蔵
- ③中院通茂肖像／京都大学総合博物館蔵
- ④冷泉家門人帖／冷泉家時雨亭文庫蔵
- ⑤霊元天皇宸筆扇形／同志社大学歴史資料館蔵
- ⑥田村建頭旧蔵『古今集抄』／国文学研究資料館蔵
- ⑦古今伝受箱開見之訓状／当館蔵

開館時間／9:00～17:00 [入館は16:30まで]

休館日／毎週月曜日 ※但し祝日・休日の9月21日(月)、10月12日(月・祝)、11月23日(月)は開館し9月24日(木)、10月13日(火)が休館

入館料／一般 300円(240円) 高校生・大学生 200円(160円) 中学生以下無料 ※()内は団体(20名以上)割引料金

※次の方々の入館料は免除となります

①65歳以上の一関市の方(年齢・住所が証明できるものを提示願います)

②障がい者・介護者の方(障がい者手帳等を提示願います)

交通案内

自動車 一関ICより西へ約7分(5km)、一ノ関駅より西へ約17分(9km)

路線バス 一関駅前9番乗り場 厳美溪方面行 約20分(厳美溪バス停下車 徒歩約7分)

一関市博物館

ICHINOSEKI CITY MUSEUM

〒021-0101 岩手県一関市厳美町字沖野々215番地1

TEL 0191-29-3180 FAX 0191-33-4006

<https://www.city.ichinoseki.iwate.jp/museum/>

